石川県加賀市大聖寺方言の立ち上げ詞

加藤　和夫・野田　浩

Ⅰ．はじめに

1．調査対象地：　加賀市大聖寺地区は、石川県の最南端、福井県との県境に位置する。かつては、加賀藩の支藩、大聖寺藩十万石の城下町であった。県庁所在地の金沢市から、北陸自動車道あるいはＪＲの特急で約30分、小松空港からも一般道で約30分の距離にある。平成17年3月31日現在で加賀市の人口は66,883人。同年10月に、隣接する江沼郡山中町と合併して新「加賀市」が発足した。新「加賀市」は、加賀温泉郷として知られる片山津・山代・山中の三つの温泉地を抱える。産業としては、観光業、稲作と果樹（梨）栽培を中心とした農業、かつて北前船の寄港地として栄えた橋立港の漁業などがある。

2．調査年月日：2005年11月下旬

3．話者　：　野田浩（昭和7年1月28日生まれ）

4．調査者・調査場所：加藤和夫、野田浩・野田浩宅

5．調査方法：野田浩の内省資料をもとに、加藤和夫が加筆・修正をした。なお、原資料（内省資料）のパソコン入力に、金沢大学教育学部生今澤ひろ子さんの協力を得た。

6．その他：①アクセントの記載は省略した。

②統一調査文に対して複数の回答が得られた場合は、それぞれの回答を／で仕切る形で示した。回答ごとに片仮名表記のあとに漢字平仮名交じりで共通語訳を付したが、複数の回答の共通語訳が一致する場合は、最後にまとめて共通語訳を付した。末尾に回答に現れた語形等への補足説明を＜　＞に入れて示した場合がある。

③必ずしも統一調査文の通りの回答でなくても、回答されたものはなるべく多く掲げることにした。

Ⅱ．調査結果

1．自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

〇ドッコイショ。イップク　ショー。どっこいしょ。一休みしよう。／ドッコラショ。イップク　シルカ。どっこいしょ。一休みするか。

(2) どうれ。出かけることにしよう。

〇サー、デカケルカ。／サー、デカケッカ。さあ、出かけるか。

(3) よいこらしょ。とうとう山の天辺に着いた。

○ヨッコラショ。トードカ　ヤマノ　テッペンニ　ツイタザ。／ヨッコラショ。トードカ　ヤマノ　テンコニ　ツイタゾ。よいこらしょ。とうとう山のてっぺんに着いたよ。

(4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○アー　シモタ。モー　チョッコリデ　オチルトコヤッタ。ああ、しまった。もう少しで落ちるところだった。／アー　ビックリシタ。モー　チョッコシデ　オチルトコヤッタ。ああ、びっくりした。もう少しで落ちるところだった。

(5) くわばらくわばら。恐ろしかった！

○モー　イヤヤ、イヤヤ。オトロシカッタ。もう、嫌だ、嫌だ。恐ろしかった。／アーオトロッシャ、オトロッシャ。テンポニ　オトロシカッタ。ああ、恐ろしい、恐ろしい。とても恐ろしかった。

(6) しめた！今度の魚は大きいぞ。

○オイ、ヒートッロ、ヒートッロ。コンダノ　サカナァ　デカイゾ。／オイ、ヒートッロ、ヒートッロ。コンダノ　サカナァ　デッケーゾ。おい、引いているぞ、引いているぞ。今度の魚は大きいぞ。<ヒートッロはヒートルゾからの音変化形。>

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

○エー、ドーナッテモ　エー。トビコエルシカ　ネーゾ。ええ、どうなってもいい。飛び越えるしかないぞ。／モー　ドーデモエー。トビコエルシンカ　ネーゾ。もうどうでもいい。飛び越えるしかないぞ。

(8) なにくそ！負けてなるものか。

○ナンジャ　クソ、マケルモンカイヤ。なにくそ、負けるものか。／ナンジャ　クソ、ヤラレルモンカイヤ。なにくそ、やられるものか。

(9) しめしめ！誰も気がついていない。

○オ、エーゾ、エーゾ。ダレモ　キァ　ツイテオラン。／オ、エーゾ、エーゾ。ダレモキァ　ツイトラン。お、いいぞ、いいぞ！誰も気がついていない。

(10) ちぇっ。つまらないなあ。

○ナンジェ。クソオモッショモ　ネーンナ。なんだ。くそ面白くもないな。

(11) ちくしょう！仕返しをしてやる。

○エー、クソ、ジェッタイ　ヤッツケテヤル。／コンチキショー、ジェッタイ　ヤリカエーテヤル。<高年層方言ではセ、ゼは古音のシェ、ジで発音される。>

(12) くそっ！覚えていろ！

○エー　クソ、オボエテ オレヤ。／エー　クソガキ、オボエテ　オレヤ。えい、くそ！覚えていろよ！

(13) おやおや、いったいどうしたの。

○オイ　オイ、ドーシタンヤイヤ。／アリャ　アリャ、ドーシタンジャイヤ。おいおい、どうしたんだよ。

(14) えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○＜「エヘン」のように得意になったり、他人の注意を引く言い方は使わない。＞

(15) はてな、ここはどこだろう？

○ハテー、ココァ　ドコヤロ。はてな、ここはどこだろう。／アリャー　オカシゾ、ココァ　ドノヘンヤロ。あれ、おかしいぞ、ここはどの辺だろう。

2．他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○ハイ、ワカリマシタ。はい、わかりました。

(17) はい。宜しゅうございます。

○ハイ、イーデス。はい、いいです。／ハイ、ヨロシーデス。はい、よろしいです。

(18) ええ、ここに居ます。

○ハイ、ココニ　オリマス。はい、ここにおります。／オー、ココニ　オリマス。ええ、ここにおります。

(19) んだ。私の傘です。

○ソーヤ、ワシノ　カサヤ。そうだ、私の傘だ。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○ソヤ　ソヤ。アンタノ　ユートーリヤ。そうだそうだ。あなたの言うとおりだ。

(21) ほいきた。おやすいご用です。

○ヨシ　ワカッタ。オヤスイ　ゴヨーヤワイネ。よし、わかった。おやすいご用だよ。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○ヨッシャ。ヤリマスワイネ。よっしゃ。やりますよ。

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

○ヨシ、ヨシ。ヒキウケマッソ。よしよし、引き受けますよ。＜ヒキウケマッソはヒキウケマスゾからの音変化形。＞

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○ワカッタゾ。イッショニ　イコー。わかったよ。一緒に行こう。

(25) かっぱのへだ。簡単だ。

○ヘノカッパヤ。ソンナモン　カンタンヤ。屁のかっぱだ。そんなもの、簡単だ。

---

(26) いえいえ、とんでもございません。

○イエイエ、トンデモナイデス。いえいえ、とんでもないです。／イヤイヤ、メッソーモナイデス。いえいえ、めっそうもないです。

(27) なんの、たいしたことではございません。

○ナンノ　アンタ。タイシタコトデァ　ナイデス。なんの、あなた。たいしたことでは

ないです。／ナニオ　イーナル。タイシタコトァ　ナイデス。何をおっしゃる。たいしたことはないです。＜イーナルの「ナル」は尊敬の敬語助動詞ナル。福井県嶺北地方から石川県加賀市までの範囲に分布する。＞

(28) なあに、すり傷ぐらい、すぐ治るさ。

○ナーモ、ドムネ。コンナ　カスリキズグ゜ライ　ジキ　ナオルワイヤ。なにも、どうということもないよ。こんなかすり傷ぐらい、すぐ治るよ。

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○ナンジャイヤ、イツモ　チョーシノ　エーコトバッカリ　ユーテ。／ナンヤイヤ、イツモ　チョーシノ　エーコトバッカリ　ユーテ。なんだよ、いつも調子の良いことばかり言って。

(30) いやはや、とんだ目にあいました。

○イヤハヤ、テンポナメニ　オータワイヤ。いやはや、大変な目にあったよ。

(31) へん、勝手にしやがれ。

○フーンヤワイ、カッテニ　シェ。／フーンヤワイ、カッテニ　シェーヤ。ふうん、勝手にしろ(よ)。

(32) なめるんじゃねぇよ。こいつ！

○メトニ　シンナヤ。コノ　ガキァ。馬鹿にするなよ。この野郎。／アンマリ　ダラニ　シンナヤ。コイツ。あまり馬鹿にするなよ。こいつ。＜メトニシルで「侮る。馬鹿にする」の意味。ダラは石川・富山両県で「アホ・バカ」の意味。＞

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って！

○ジョーダンデ　ネーゾ。デタラメバッカリ　ユーテ。冗談じゃないぞ。でたらめなことばかり言って。

(34) だまらっしゃい。でたらめばかり言って！

○ダマットレ。デタラメバッカリ　ユーテ。黙っていろ。でたらめばかり言って。

(35) そうは問屋がおろさねえ。黙っていられねえ。

○ソー　ンマイワケニャ　エカンゾ。ダマッテ　オラレン。そう、うまいわけにはいかないぞ。黙っていられない。／ソーワ　エカンゾ。ダマッテ　オラレン。そうはいかないぞ。黙っていられない。

(36) うそもヘチマもありゃしねえ。我慢できねぇ。

○ウソモ　ヘチマモネーゾ。モー　ガマン　デキン。うそもへチマもないぞ。もう我慢できない。

(37) 寝言は寝ていえ。このやろう。

○ネゴ゜トァ　ネテカラ　イエ。コノ　ガキァ。寝言は寝てから言え。この野郎。

(38) あたりきしゃりきの、けつのあな。当たり前だ！

○アタリキシャリキ　ケツナナ　ブリキ。ソンナ　コトァ　アタリマエヤ。／アタリキ

シャリキ　ケツナナ　ブリキ。ソンナ　コトァ　アタリマエヤワイヤ。あたりきしゃりきけつの穴、ブリキ。そんなことは当たり前だ(よ)。＜ケツナナはケツノアナの変化形。＞

(39) きみょうきてれつだ。それは変だ。

○ガテンノ　エカン　フシギ゜ナ　ハナシヤ。オカシ　ハナシヤ。納得できない不思議な話だ。妙な話だ。

---

(40) ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○ホー、ソレァ　オヤコーコーナ　コドモサンヤンナ。ほう、それは親孝行なお子さんだね。

(41) まいったまいった。しかたがない。

○マイッタ、マイッタ。シヤネンナ。まいった、まいった。しかたがないね。／マイッテモタ。シヤネンナ。まいってしまった。しかたがないね。

3．他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○アノー、チョット　スミマシェン。ヤクバァ　ドコニ　アルンジェーネ。あのう、ちょっと、すみません。役場はどこにあるんだい。＜アルンジェーネはアルンジャイネからの音変化形。＞

(43) のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○サー　サー、オキャクサン、チョット　ヨッテイキネーネ。さあさあ、お客さん。ちょっと寄っていきなさいよ。＜ヨッテイキネーネの「ネ(ー)」は動詞連用形に続いて、その動作をするように優しく命令したり、促したりする意味の終助詞。本来「ナイ」だったものが「ネ(ー)」に音変化したもの。福井県嶺北地方の分布に連続して石川県では加賀市までの範囲で使われる。＞

(44) ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○ホラ、ミネマ。ムコーニ　コーエンナ　アリマスヨ。ほら、見なさい。向こうに公園がありますよ。＜ミネマの「ネ」は(43)で説明した「ネ(ー)」に同じ。コーエンナのように格助詞ガ゜が「ン」に後接する場合「ナ」に変化することがある。＞

(45) やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

○オイ　オイ。コンネ　アサ　ハヨカラ　ドコ　イクンジャ。／オイ　コラ。コンネ　アサ　ハヨカラ　ドコ　イクンジャ。／コラ　コラ。コンネ　アサ　ハヨカラ　ドコ　イクンジャ。おい、おい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ。

(46) よう、兄弟。これから何をするつもりだい？

○オイ　△△。コレカラ　ナニシル　ツモリヤイヤ。おい、△△。これから何をするつ

もりだい。<△△には友達の「あだ名」や「名前」が入ることが多い。>

(47) いざ、さらば。

○オッ、ソンナラ　コンデ　サイナラヤ。おっ、それでは、これでさようならだ。

(48) ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。

○サー　サ、エンリョシェント　タベテクダンシェ。／サー　サ、エンリョシェント　タベテクッサイ。／サー　サ、エンリョシェント　タベテクデ。さあさあ、遠慮しないで食べて下さい。

(49) さて、そろそろ一服しませんか。

○サー、ソロソロ　イップク　シェンケネ。さあ、そろそろ一服しないかね。／サー、ソロソロ　イップク　ショマエケーネ。さあ、そろそろ一服しようよ。

(50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。

○オイ　オイ、チョッコリ　シズカニ　シェーマ。おいおい、ちょっと静かにしろよ。／コラ　コラ、チョッコシ　シズカニ　シェーマ。こらこら、ちょっと静かにしろよ。<シェーマの「マ」は強意の終助詞。ここでは「しろ」の意の命令形「シェー」の意味を強めている。>

(51) おい、こら。万引きをしてはいけない。

○オイ、コラ。マンビキ　シタラ　エカンガ゜イヤ。おい、こら。万引きをしたら駄目だよ。

(52) おどりゃあ。いい加減にしないか！

○オドレァ。エーカゲ゜ンニ　シェンカイ。おどりゃあ。いい加減にしないか。／オドレァ　ザマタレァ。エーカゲ゜ンニ　シェンカイ。おどりゃあ、この野郎。いい加減にしないか。

(53) おのれ、裏切りやがったな。

○エー、クソガキャ。ウラキ゜ッタナ。えい、この野郎。裏切ったな。／エー、クソタレァ。ウラキ゜ッタナ。えい、このくそったれが。裏切ったな。

(54) どっこい。その手には乗らない。

○オット。ソノテニャ　ノランゾ。おっと。その手には乗らないぞ。／オット。ソノテァ　クワンゾ。おっと。その手は食わないぞ。

(55) どうだ、参ったか？

○ドーヤイ、マイッタカ。／ドーヤイヤ、マイッタカ。どうだ、参ったか。

---

(56) せいの、よいしょ！

○サン　シーノ　ヨイショ。／サン　シーノ　ヨイシェ。三、四のよいしょ。

(57) ようい、どん！

○ヨーイ、ドン。ようい、どん。

(58) いっせいの、で！

○ヨイシェ　ノーデ。よいしょ、で。

(59) よいしょ、よいしょ。もう一息だ！

○ヨイショ、ヨイショ。モー　ヒトイキヤ。／ヨイシェ、ヨイシェ。モー　ヒトイキヤ。よいしょ、よいしょ。もう一息だ。

(60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○ヨイショ、ドッコラショ。モー　チョッコリヤ。／ヨイショ、ドッコラショ。モー　チョッコシヤ。よいしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

(61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッショイ、ワッショイ、オミコシ　ワッショイ。わっしょい、わっしょい、おみこし、わっしょい。

(62) はじめはぐう、じゃんけん、ぽん！あいこでしょ。

○ジャンケン、ジュス。／アイケン、ジュス。じゃんけん、ぽん。

(63) きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

○キョツケ、マエエナライ、ナオレ。気をつけ、前へならえ、直れ。

(64) きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツ、レー、チャクシェキ。起立、礼、着席。

---

(65) ばんざい、ばんざい。やった、やった！

○バンザーイ、バンザーイ。ヤッタ、ヤッタ。万歳、万歳。やった、やった。

(66) えいえいおう。頑張るぞ。

○オー、ガンバッロ。おお、頑張るぞ。＜ガンバッロはガンバルゾからの音変化形。＞

(67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

○ナカムラクンノ　タンジョービオ　シュクシテ　カンパーイ。オメデトー。中村君の誕生日を祝して、乾杯。おめでとう。

(68) やっほう、やっほう。

○オーイ、オーイ。おうい、おうい。

(69) ふれえ、ふれえ、白組。

○ガンバレー、ガンバレー、シロク゜ミ。頑張れ、頑張れ、白組。

(70) おにはそと、ふくはうち。

○オニワ　ソト、フクワ　ウチ。鬼は外、福は内。

---

(71) べらぼうめ、とんでも無い子だ。

○コノ　オチョーシモンナ　トンデモナイ　ヤツヤ。／コノ　オチョーシモンナ　トンデモネー　ヤッツャ。このお調子者が、とんでもないやつだ。＜オチョーシモンナの

「ナ」は、格助詞「カ゜」が「ン」に後接した場合に現れる。(44)参照。>

(72) それみたことか、わんぱく坊主。

〇ソラッミョ、キカン　ガキ。／ソラッミョ、ダラキカン　ガキ。そら見ろ、わんぱく坊主め。<ソラッミョはソラミヨからの変化形。>

(73) ざまあ、みろ。いい気味だ。

〇ザマー　ミー。／ザマー　ッミョ。ざまあ、みろ。

(74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

〇エー、チキショーメ。ヒドイコトオ　ユーワイヤ。えい、ちくしょうめ。ひどいことを言うよ。

(75) このやろう。どうしてくれようか。

〇コンチキショー、ドーシテ　ヤルカンナ。／コンチキショー、ドーシテ　ヤロカンナ。こんちくしょう。どうしてやろうかな。

(76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

〇ダラケ、チョーシノ　エーコト　ユーンデネ。馬鹿野郎、調子のいいことを言うんじゃない。

(77) ばかやろう、いい加減なことを言うな。

〇バカヤロー、アテケ゜ーナ　コト　ユーナ。／バカヤロー、アテケ゜ーナ　コト　ユートンナ。馬鹿野郎、いい加減なことを言うな。<アテケ゜ーナは「いい加減な」の意味のアテカ゜イナからの変化形。>

(78) あなかま、静かにしなさい。

〇ヤカマシンナ、シズカニ　ショー。／コヤカマシンナ、シズカニ　シェー。うるさいな、静かにしろ。<当方言を含む北陸方言では意思形が命令の意味で使われる。よって、ここでの「ショー」は「シェー」と同じ命令の意となる。>

(79) しいいっ、静かにして！

〇シーッ、シズカニ　シェー。しいいっ、静かにしろ。

(80) ちちんぷぷい、蛙、蛙、生き返れ。

〇チチンプイプイ、ギャワズ、ギャワズ、イキカエレ。ちちんぷいぷい、蛙、蛙、生き返れ。<ギャワズは当方言で「蛙」の意の俚言。>

(81) あっかんべい、鬼さん、こちら。

〇アーカンベー、オニサン　コッチ。あっかんべい、鬼さん、こちら。

---

(82) あっぱれ、お見事。立派です。

〇アー、リッパヤ。ヨー　タスケナッタ。ああ、立派だ。よくお助けになった。<タスケナッタの「ナッタ」は尊敬の敬語助動詞ナルの過去形。(27)参照。>

(83) でかした、でかした。日本一。

○ヨー　ヤッタ　ヨー　ヤッタ。ニッポンイチヤ。よくやった、よくやった。日本一だ。

---

(84) しっけい！すみません。

○ゴメンゴメン、スミマシェン。／ゴメンゴメン、スンマシェン。ごめんごめん、すみません。

(85) あばよ、達者でな。

○アーバヨ、タッシャデンナ。／サイナラ、タッシャデンナ。さようなら、元気でね。

Ⅲ. 総括（まとめ）

以上、統一調査文によって加賀市大聖寺方言の「立ち上げ詞」あるいは、それに相当する表現を記述してきた。

ここでは、統一調査文における、「1．自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する立ち上げ詞」、「2．他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる立ち上げ詞」、「3．他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する立ち上げ詞」の3種の「立ち上げ詞」の分類ごとに、当方言の特徴を簡単にまとめておく。

まず、「1．自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する立ち上げ詞」では、調査文(2)の「どうれ」、(5)の「くわばらくわばら」、(6)の「しめた」、(7)の「ままよ」、(9)の「しめしめ」、(14)の「えへん、えへん」にそのままあたるような立ち上げ詞は確認できなかった。一方、(1)の「どっこいしょ」には「ドッコイショ／ドッコラショ」、(3)の「よいこらしょ」には「ヨッコラショ」、(4)の「しまった」には「アー　シモタ」、(8)の「なにくそ」には「ナンジャ　クソ」、(10)の「ちぇっ」には「ナンジェ」、(11)の「ちくしょう」には「エー　クソ／コンチキショー」、(12)の「くそっ」には「エー　クソ／エー　クソガキ」、(13)の「おやおや」には「オイ　オイ／アリャ　アリャ」、(15)の「はてな」には「ハテー」などの立ち上げ詞が確認できた。中でも、「アー　シモタ」、「ナンジャ　クソ」、「ナンジェ」、「コンチキショー」、「ハテー」などが、当方言に特徴的なものと言えるだろう。

次に、「2．他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる立ち上げ詞」では、調査文に含まれる共通語的な立ち上げ詞に同じか近いものが多かったが、立ち上げ詞にあたるものが確認できなかったものには、(32)の「なめるんじゃねぇよ」、(35)の「そうは問屋がおろさねえ」、(39)の「きみょうきてれつだ」にあたる言い方がある。それぞれ、説明的に「メトニ　シンナヤ／アンマリ　ダラニ　シンナヤ」、「ソー　ンマイワケニャ　エカンゾ／ソーワ　エカンゾ」、「ガテンノ　エカン　フシギ゜ナ　ハナシヤ」といった言い方になっている。当方言の立ち上げ詞として特徴的なものに、(28)の「なあに」には「ナーモ」、(29)の「なにさ」には「ナンジャイヤ／ナンヤイヤ」、(31)の「へん」には「フーンヤワイ」、

そして、(38)の「あたりきしゃりきの、けつのあな」には「アタリキシャリキ　ケツノアナ　ブリキ」が聞かれた。

最後に、「3．他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する立ち上げ詞」では、調査文に含まれる共通語的な立ち上げ詞（(56)～(64)は掛け声にあたるもの）に同じか近いものに(44)の「ほら」、(48)の「ささ」、(49)の「さて」、(51)の「オイ、コラ」、(52)の「おどりゃあ」、(57)の「ようい、どん」、(59)の「よいしょ、よいしょ」、(61)「わっしょい、わっしょい」、(63)の「きをつけえ、まえへならえ、なおれ」、「(64)の「きりつ、れい、ちゃくせき」、(65)の「ばんざい、ばんざい」、(67)の「かんぱい、おめでとう」、(70)「おにはそと、ふくはうち」、(73)の「ざまあ、みろ」、(74)の「ちくしょうめ」、(77)の「ばかやろう」、(79)の「しいいっ」、(80)の「ちちんぷぷい」、(81)の「あっかんべい」などがある。一方、立ち上げ詞に必ずしもあたらないものも一部含んで、当方言に特徴的なものに、(53)の「おのれ」には「エー、クソガキャ／エー、クソタレァ」(54)の「どっこい」には「オット」、(55)の「どうだ」には「ドーヤイ(ヤ)」、(56)の「せいの」には「サン　シーノ　ヨイショ(ヨイシェ)」、(58)の「いっせいの、で」には「ヨイシェ　ノーデ」、(62)のじゃんけんの掛け声には「ジャンケン　ジュス／アイケン　ジュス」、(68)の「やっほう」には「オーイ」、(71)の「べらぼうめ」には「コノ　オチョーシモンナ」、(72)の「それみたことか」には「ソラッミヨ」、(76)の「たわけ」には「ダラケ」などが聞かれた。

今回、「立ち上げ詞」の調査（記述）を行い、調査方法によってさまざまな回答が聞かれる可能性のあるこの種の表現の調査の難しさを痛感した。しかし、石川県内の方言で言えば、金沢方言などで聞かれる「エーナ！」（自分の意に反したことが起こり、そのことに対して腹立たしい気持ちで発することば）、白山麓白峰方言で聞かれる「ヤートロ！」（予想に反したことが起こったとき、驚いたときなどに思わず発せられることば。「ヤー　オトロシ」＜ああ、恐ろしい＞の短縮形か）、輪島市海士（あま）町方言で聞かれる「オーコライエ！」（驚き、意外、感動などの気持ちを表すことば）など、従来の方言研究で記録されることはあっても、あまり注目されることのなかった「立ち上げ詞」（およびそれに類する表現）の調査の重要性をも同時に再認識した。本書に載る、全国各地の「立ち上げ詞」データにより、今後、この分野の研究が大いに進展することを期待したい。

（かとう　かずお　金沢大学教育学部／のだ　ひろし）